

1 単元名 (表現運動)「忍者でござる」

2 授業づくりの構想

(1) 運動の持つ特性

中学年の表現運動は、「表現」及び「リズムダンス」で構成される。低学年で身に付けた様々な動きを使ったり、身近な題材や空想の世界を全身の動きで表現したりする運動である。

低学年の「表現リズム遊び」の学習を踏まえ、中学年では、表現運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、題材の特徴を捉えた多様な表現と全身でリズムに乗って踊る学習を通して、即興的に表現する能力やリズムに乗って踊る能力、友だちと豊かに関わり合うコミュニケーション能力などを培えるようにし、高学年の「表現運動」の学習につなげていく。

また、表現運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫し、誰とでも仲良く踊ったり、友だちの動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりすることが大切である。

(2) 児童の実態

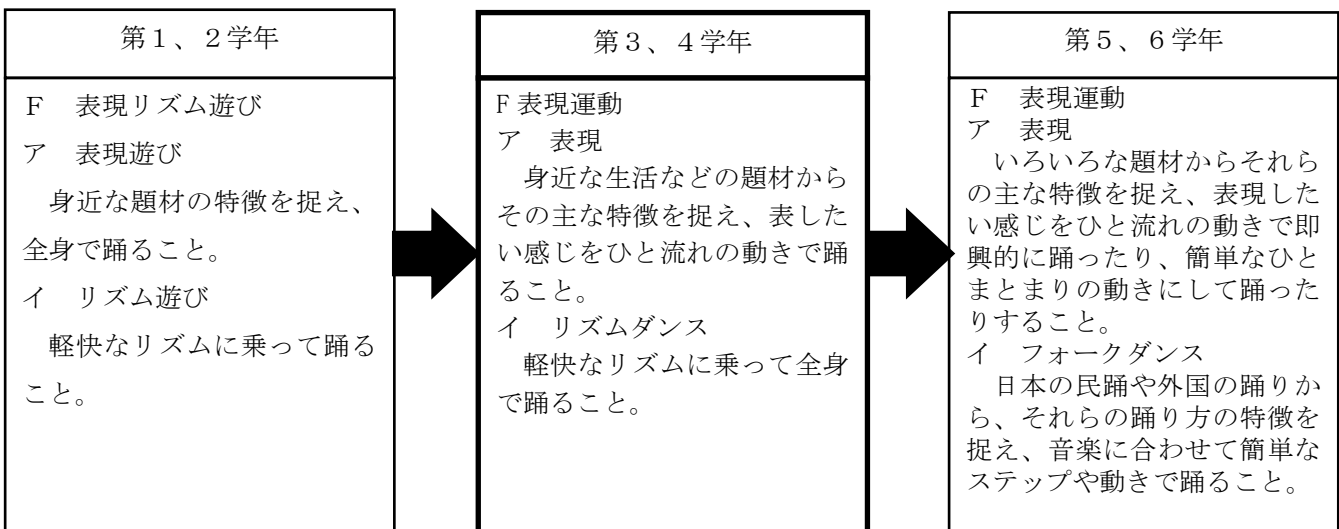
本学年の児童(男子9名、女子6名、計15名)は、体を動かすことが好きな児童が多く、体育科の授業において、自身の運動能力を高めることに努力したり、友だちと協力したりする姿が多く見られ、意欲的に活動に取り組んでいる。

表現運動において、運動会のダンス練習では下学年のリーダーとして1、2年生を引っ張ったり、休憩時間にも音楽をかけて練習に前向きに取り組んだりする姿がたくさん見られた。

また、昨年の表現遊びでは、昆虫や魚など身近な生き物になりきり、体育館のステージで友だちと発表をする中で、全身を使って表現を楽しむ様子が見られた。

一方で、表現運動に対して「恥ずかしい」「苦手」という意識をもつ児童が見られる。児童が殻を破るために、「安心感の確保」と「成功体験の積み重ね」を意識させたい。

(3) 運動(学習内容)の系統性



(4) 単元の目標

【知識及び技能】

表現運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、身近な生活などの題材から主な特徴や感じを捉え、表現したい感じをひと流れの動きで即興的に踊るようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

自己の能力に適した課題を見付け、題材やリズムの特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫するとともに、考えたことを友だちに伝えるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

表現運動に進んで取り組み、誰とでも仲良く踊ったり、友だちの動きや考えを認めたり、場の安全に気を付けたりするようにする。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

1 つくる／はぐくむ（＝学習の個性化）

○心と体のほぐし

本校では、本時目標の確実な達成のために、指導事項をはっきりさせた教材研究に取り組んでいる。また「ほめどころ」を意識した授業づくりを進めているところである。本単元において、教師と一緒に忍者になりきることで自己表現することの楽しさを体験し、心と体をほぐしながら表現運動の活動につなげていきたい。

○題材設定について

「空想の世界からの題材」の中から、「忍者」に焦点を当てた。身近な生活とは異なる空想の世界が題材であるため、イメージすることが困難な児童もいると想定される。そのため、イメージを共有したり、考えた動きを共有したりする場面を設けながら児童個々が持つ考え方や表現方法の多様性を認めることで、児童に自由に表現することが楽しいと思える雰囲気づくりを常に意識する。

2 あつまり、ともに、つながる（＝協働的な学び）

○ICT 機器の活用

タブレットで児童が活動の様子を撮影し、活動の途中に自分たちの様子を確認する時間を設ける。動画を確認することで友だちのよい動きを取り入れたり、動きを大きくしたり、空間を大きく使ったりするなどの工夫ができるように仕向けたい。

○友だちと動作を共有して創り上げる

個人やグループで出た創造性あふれる表現方法を積極的にまねし、友だちの良い動きや新しい動きを繰り返すことで、表現することに対して自信を持たせる。「もっと表現したい」「次は大きな動きに挑戦したい」と児童が思い、体を使って自分を表現することが楽しくて素晴らしいと感じ取れるよう授業を進めたい。

また、表現する際には「空間」、「体」、「リズム」、「人間関係」の4つの「くずし」を意識させることで、ダイナミックな動きや自然表現ができるようにしていきたい。そして誰とでも仲良く踊ること、場の安全に気を付けることなどをできるようにすることを大切にしていきたい。

3 誰もがアクセスできる（＝指導の個別化）

○導入での教師といっしょに踊る活動の採用

毎時間の導入の際、主活動にスムーズに入れるように心と体をほぐすためのリズムダンスを行う。表現運動に苦手意識がある児童でも、教員と一緒に踊ることで動きが広がり、表現することの楽しさを体感させると同時に、即興的に踊ることに慣れることをねらいたい。

自己表現が苦手な児童については、教師や友だちと踊る中で心も体もほぐし、表現活動に取り組むことへの安心感につなげる。

(6) 「する、みる、支える」の視点での授業づくり

関わり	中学年	具体的な活動・姿
する	<ul style="list-style-type: none"> ・空想の世界などの題材から主な特徴や表現を捉え、表したいものをひと流れの動きで即興的に踊る。 (知識及び技能ア) ・課題解決のための活動を選ぶ。 (思考力、判断力、表現力等ア) ・表したい動きを体全体を使って大きく表したり、ひと流れの動き意識して表現したりすることに進んで取り組む。(学びに向かう力、人間性等ア) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの動きを改善するにはどうしたらよいか考える。 ・表現する際に動きやリズムなどの変化を意識し、ひと流れの動きで表現している。 ・音楽や言葉から即興的な動きをする。
みる	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちのよい動きを見付ける。 (思考力、判断力、表現力等イ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・忍者らしい動きを意識できている友だちを見付ける。
支える	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために考えたことを友だちに伝える。(思考力、判断力、表現力等イ) ・表現に取り組む際、約束を守り、誰とでも仲良くする。 (学びに向かう力、人間性等イ) ・周囲の安全に配慮し、友だちとぶつからないように踊る。(学びに向かう力、人間性等オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・動きをお互いに見合い、気付いたことを友だちに伝える。 ・グループの友達と協力して取り組んでいる。 ・場の安全に気を付けて踊る。

(7) 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3	4（本時）	5
主なねらい		・学習の進め方を理解しよう。 ・「くずし」を理解しよう。	「術」を体験しながら忍者になって踊ろう。		ひとまとまりの動きで即興的に踊ろう。	発表会をしよう。
核となる 学習内容		・学習のねらいと進め方 ・「忍者の動き」を実際に行う。	・「忍者の術」を試行する。 ・「忍者の戦い」を実践する。		・「忍者の世界」をひとまとまりの動きで表現する。	・グループごとに考えたひとまとまりの動きを発表する。 ・友だちのよい動きを見付ける。
学習活動		オリエンテーション ・学習の目標と進め方 ・きまり、学習の場、安全面について知る ・忍者の動きを出し合う ・やってみよう	本時のめあて・活動内容の確認			
			〇〇をやってみよう（リズムダンス）			
			活動① 「忍者の術」をやってみよう。 ・体を思いっきり使う	活動① 「忍者の戦い」をやってみよう。 ・スピードを変える ・相手の動きをよく見る	活動① 「忍者の世界」をひと流れで表現しよう。 ・グループに分かれてひと流れの動きを構成する ・考えた動きをグループごとに練習する	・グループに分かれて練習する ・全体発表 ・まとめ
			活動② 友だちのよい動きを見付けたり、考えたりしたことを伝え合い、さらによりよい動きでもう一度おどる。			
			ふり返り			
評価の計画	知	①（観察）		②（観察）	③観察	③（観察）
	思		①（観察・発言・わたしたちの体育）		②（観察・発言・わたしたちの体育）	
	態	①（観察）	①（観察）	②（観察）		④（観察）

具体的な評価規準	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	①表現運動の行い方を理解している。 ②「忍者」という題材から、主な特徴や表現を捉えることができる。 ③表したい表現をひと流れの動きで即興的に踊ることができる。	①自分の表したい題材の特徴を捉えた踊り方や交流の仕方を工夫している。 ②課題解決のために考えたことを友だちに伝えている。 ③ひとまとまりの動きで表現する。	①表現運動に進んで取り組もうとしている。 ②誰とでも仲よく踊ろうとしている。 ③友だちの動きや考えを認めようとしている。 ④場の安全に気を付けようとしている。

